

かんばるっ子



—こせみどりの少年隊—
(巨瀬町)

隊長 牧 義夫さん(74)

豊かな自然を守る

生息していたホタルやカジカカエルなどを守るため、川岸の清掃などを行っています。毎年6月に行う、魚のつかみどり大会は楽しみ行事です。ここでの活動をもとに他の地域での自然体験学習へも積極的に参加しています。

隊員の上森美沙希さん(巨瀬小5年)は「クリーン作戦では、弁当カラや空き缶など、ごみがいっぱい集まります。ごみは持ち帰り自然を大切にしたいです」、また加藤皓大君(同6年)は「自然がなくなったら僕は生きていけません。頑張つて緑を大切にしたい」と力づく話してくれました。

隊長の牧さんは「このままでは豊かな地球は百年ももたないのでは」。子どもたちには、巨瀬の地を「地球のへそ」とし、まずはこのへそから自然を大切に、まわりに広げていこうと言っています」と、自然とともに育つ子どもたちに期待を寄せています。

4月29日みどりの日、「緑の募金をお願いします」と、市内大型店の2カ所で子どもたちの声が響き渡っていました。緑や森林を大切に緑化活動に取り組んでいる「こせみどりの少年隊」の隊員たちです。

同少年隊は、「野山に親しみ、緑を愛し、水と緑の大切さを体験、学習していくこと」を目的に平成10年5月に設立されました。

隊の活動拠点は、巨瀬小学校から東へ約1kmほど行った「午王谷公園」とその付近の森林。市有林を市から4袋借りて、自然体験の活動ができるようにしています。

野鳥のすみやすい森をつくるためどんぐりなど実のなる木を植える活動や小鳥の巣箱づくり、昔から



植林(上)と募金活動をする隊員



人形劇団クッキー

(有漢町)

代表 田中英子さん(43)

子どもたちに笑顔を

「子どもたちに手づくりの温かい人形劇を見せてあげよう」をモットーに活動を続けている有漢町の「人形劇団クッキー」。今年で結成8年目を迎え、現在は4人のメンバーで活動しています。

結成のきっかけは、町内の乳幼児と保護者の集まる「やんちゃクラブ」の活動の一環として始めた人形劇。5月5日に行われた「うかん人形劇まつり」には、第2回目から毎回出演しています。

このほか、市内の幼稚園、保育園、幼児クラブや吉備中央町、新見市など周辺地域へも出向き、多いときには年間15回もの公演をこなしています。

人形劇の内容は、絵本などから題材を取り、子どもたちに分かりやすくアレンジ。レパートリーは10種類以上になります。劇に使用する人形や道具は、もちろんメンバーによる手づくりです。

代表の田中さんは「いろいろなところに出かけることで、人の輪が広がるのがうれしいです。子どもたちが喜んでくれて、「また来てね」と声をかけてもらうことが励みになっています」とニコリ。

菅原知子さん(40)からは「仕事や家庭でそれぞれに忙しく、全員そろっての練習がなかなかできません」との悩みも。とはいえ、久々の新作「へんしんトンネル」を披露した同人形劇まつりでも、練習時間が取れないという言葉が信じられないくらいメンバーの息はピッタリ。会場を訪れた子どもたちからは大きな歓声が上がっていました。

「大きなことではできませんが、地道に長く活動が続けていければ」「新作にもいろいろ取り組んでみたいですね」と今後について語る末田真弓さん(40)と徳田佐枝子さん(40)。

これから先も、「人形劇団クッキー」が市内の子どもたちを楽しませてください。



学園だより

吉備国際大学 公開講座開催!



平成18年度公開講座（今年度のテーマ「子どもと高齢者のかかわりあい」）が5月からスタートしました。“障害をもったさっちゃんのお話”や“スウェーデンの絵本”を通して、国の制度や社会のあり方を考えたり、保育園児を持つ両親に“ストレスに関するアンケート”を行い、その結果をもとにどのような支援ができるのかを考えたり、多彩な内容の講座をご用意し

て皆さんをお待ちしています。

1回からの受講も可能ですので、お気軽にご参加ください。

場 所

総合文化会館2階
レクチャールーム

時 間

14:00～16:00

受講料

無 料

月 日	講 師	演題・テーマ
5月20日(土)	澤山信一 (社会福祉学部)	健康に生きさせてよ！～居場所のない子どもとホームレス高齢者～
5月27日(土)	渡辺由己 (社会福祉学部)	今、子どもとふれ合うこと、子どもの頃の自分を回想すること～心理学視点から～
6月3日(土)	中野明子 (社会福祉学部)	絵本をとおして福祉を考える
6月10日(土)	岡本絹子 (保健科学部)	地域で支える子育て支援
6月17日(土)	野原ひでの (社会福祉学部)	子どもの安全について
6月24日(土)	田中和吉 (社会福祉学部)	ふるさとの遊びを子どもたちに！～手作り遊び教室から～
7月8日(土)	菊池城司(副学長)	アリエス「子どもの誕生」をめぐる

■問い合わせ・申し込み 高梁学園広報室 フリーダイヤル0120-25-9944 / e-mailアドレス:koho@kiui.ac.jp

編集後記

「プラと紙くずを分けてごみ箱に入れてえよ」家で子どもたちに片付けをさせる時に、よく言っています。今月号では、ごみの分け方・出し方の再チェックを取り上げました。

リサイクルプラザでは、きちんと分別されていないものを手作業で仕分けしています。しかし、完全には仕分けできないといえます。その他プラスチックの中には、コンビニ弁当を食べたまま洗わずにビニール袋に包んだものやストッキング、おもちゃ、中には注射針まで混じっている場合もあるのだとか。

その他プラスチックは、偽木やパレットに生まれ変わりますが、きちんと分別されていないと再生されません。ごみの分別は限りある資源を大切に、地球にやさしい「資源循環型社会」を実現させるものです。

取材で出会った、こせみどりの少年隊の子どもたちは、「自然を大切にしないと、いつか僕らも死んでしまうから」と話してくれました。

大人より子どもたちの方が、環境への意識が高いのかも知れません。ごみの分別も含めて、もう一度、環境について考え直してみたいと思います。

(NK)

私がんばってます

吉村洋美さん(22)

倉敷市在住



私は今年の4月から特別養護老人ホーム「白和荘」で働いています。

出身は山口県岩国市ですが、大学4年間は吉備国際大学で福祉について学び、卒業後も高梁で働くことに決め



お話し 聞かせて

ました。地元が遠く離れているので不安はありますが、職場や地域の人たちに支えられてがんばっています。将来、利用者の気持ちを理解し、みんなから信頼される指導員になるために、今は現場で介護の仕事をしています。日々の仕事と社会福祉士の国家試験の勉強を両立させ充実した就職1年目を過ごしたいと思っています。

これからも、毎日安らぎを与えてくれる周りの自然や、高梁に暮らす人たちの温かさに感謝しながら、初心を忘れずがんばりたいと思います。